

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2021年  
7月1日発行  
第232号

## 勇気を持って「自分のありのままの姿」に向き合おう！

梅雨らしい、蒸し暑く鬱陶しい日が続きます。けれど自然は、この鬱陶しい温度と湿度によって豊かに成長するのでしょうか。私たち大人（保護者や教師）も、子どもたちの不登校という「さしあたってこういうことになってしまった」事実を共に受け止め、そこに生まれる様々な「鬱陶しさ」を避けないで、改めて人間になる時の大事な出来事であると受け止めたいと思います。

何とかなると放っておくのではなく、大人として責任を持って子どもを支え、導きたいと思います。昼夜逆転の生活の中でも、朝起きて、聖母に出席だけでも記入しに来る…。そして、家族に「今日行ってきた」と、ちょっと晴れた気持で報告する…。早朝に1時間だけ聖母に来る…。宿題を提出して、点検してもらって帰る…。宿題が提出できたとか、3日間続けて行けたとか、少し満たされる。小さなことですが、それぞれ子どもたちの事実です。その小さなことの中身は、「朝起きられなかったのに、週2日も起きた、うれしい」とか、「家から出て聖母に行けた。自分が行くのを友達が待っていてくれた」とか、「行ってみて、ちょっと安心できた。今の自分を少しずつ変えていこうと思えた」とか、たくさんの方が子どもの中で起こっています。自分の好きな事はするけれど、少し頑張らなければならないことはしない生徒も、「しない」のではなく、「できない」のかもしれない。だから外向きの、中身の無い「がんばらないと、やばい！」という言葉を出す。空（から）の「がんばらないと」という言葉に、生徒自身の行動や考えや感情や生活の全体が入るようにしたい。そのためにもう一度その子どもの言動を丁寧に見ながら、今、している行動を繰り返す。その行動の繰り返すを支えていくと、半歩先の行動と自分自身について考える力が芽生えてくるかもしれない。生活が意欲的になるかもしれない。今、子どもたちには、自分自身に向き合う力がなえていたり、うれしいとか悲しいとか、感情の沸き上がりが弱くなっていたり、解決できない事を自分一人で抱え込み、どうしようもなく、放ったらかしにしてしまったりといった色々な生きにくさが見て取れます。子どもたちは、大人に倣って行動します。私たち大人が素直に正直に自分自身を見、表し、日々の暮らしをしたいものです。日々の暮らしの中には、人間の全体性があります。考えも感情も行動も人間の暮らしの中で育っていきます。共に暮らす親子であっても、互いに尊敬をもって日々を暮らす。小さな行いを心を込めてしたいものです。子どもが育つために。

今月は1学期のまとめの月です。親子でまとめの話をしてみるのも良いでしょう。学校の先生と話しをしてみるのも良いでしょう。丁寧に過ごしてみましょ。よろしくお願いたします。



6/22 釣り大会（高浜漁港）

### <今月の主な行事>

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 9日（金）ギター教室 | 16日（金）心身障害者施設ボランティア       |
| 13日（火）調理実習 | 18日（日）学期末保護者会 13:30～      |
| 14日（水）体育   | 20日（火）1学期終業式              |
| 15日（木）華道教室 | 21日（水）夏休み（8月26日（木）2学期始業式） |